　創立記念式典　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長　勝俣　元雅

73年前、日本は戦争に負け、国中が焼け野原になってしまいました。アメリカの爆撃機が爆弾を落とし、静岡

市の家はほとんど焼けてしまいました。昔の家は、木でできていましたから、全部燃えてしまって、なくなっ

てしまいました。ＪＲ静岡駅から南を見ると大浜海岸の松林が見えたそうです。住む家もない、食べる物もな

い、仕事もない。人々は夢も希望もなく、途方に暮れていました。そんなとき、創立者、木宮泰彦先生は、

再び、日本が平和で文化的な豊かな国になるためには教育が必要だと思い、決意してつくった学校が常葉学園

です。

その最初の学校は静岡女子高等学院、今の常葉高校です。この静岡女子高等学院ができたのが、72年前の

今日、昭和21年6月8日（土）です。そのため、６月８日が創立記念日となりました。

創立記念日にあたり、きょうは創立者、木宮泰彦先生の「建学の精神」についてお話しします。

「建学の精神」は、私立学校にとっては、何よりも一番大事なものです。その内容は二つあります。

１番目は　学校をつくった理由、わけ。

２番目は　この学校でどんな人を育てるか　です。

１番目の　学校をつくった理由は、日本が平和で文化的な豊かな国になるためです。

２番目の　この学校でどんな人を育てるか、ですが、それは、ちょっとむずかしいですが、次のような言葉に

なっています。

「常に青々とした葉を繁らせ、純白な花を咲かせて　黄金の実を結ぶ橘こそ、常葉の象徴。

美しい心を持ち、より高い目標に向かってチャレンジし、学び続ける姿勢こそ常葉の精神。」

もう少し詳しくお話ししますと、「常に青々とした葉を繁らせ」というのは、雪が積もっても、霜が降りても

橘の葉っぱはいつでも青々としていることです。これは、つらいことがあっても、むずかしいことがあっても

へこたれず、負けないということです。

そして、「純白な花を咲かせて、黄金の実を結ぶ」ということは、がんばって結果を出すということです。

「美しい心を持ち」というのは、自分だけよければいいとは考えず、相手のことを考え、さらに、みんなのこ

とを考えみんなよし、みんなが幸せになるよう優しい気持ちを持つことです。つまり「三方よし」の心を持つ

ことです。

「より高い目標に向かってチャレンジし、学び続ける姿勢こそ常葉の精神。」とは、テストで言うなら、80点、

90点で満足するのではなく、さらに、よりよい点を目指し、勉強していくこと、マラソン記録会で言うなら、

１分でも１秒でも記録がよくなるよう練習していくこと。自分だけわかればいい・自分だけできればいい・

自分だけ気持ちよければいいというのではなく、相手よし、みんなよしへと　こころを広げていくことです。

一言で言うと「より高きを目指して」学び続ける　ということです。

すなわち、「建学の精神」とは、「より高きを目指して」学び続ける　橘っ子を育てます。ということです。

みなさんからすれば、「より高きを目指して」学び続ける　橘っ子になりますということです。

きょうの創立記念日に改めて、創立された当時を偲び、創立の精神を確かめました。

これからは、皆さん一人一人が、今の自分を振り返り、よりすばらしい自分にするために、どんなことをしたらいいか、考える日にしてもらいたいと思います。